

学びあいと絆・インダストリアルスの力



IMF-JC 事務局長
若松英幸

今年の8月、北京の「職工の家」で、中国金属工会とIMF-JCとの交流・協議を開催した。環境の大きく異なる両国の協議は、時に議論が活性化しないこともあったが、互いに交流の重要性を認識していたが故に、今日まで長い歴史を刻んできた。二国間交流の意義を、中国冶金建材工会のLuan副主席は、「交流を進めることは、お互いに学びあうこと、絆を深めることである」と、その重要性を強調していた。JCは、中国や韓国、ドイツ、北欧など、多くの国、組織と定期的な交流の場を持ち、大事にしてきた。そして我々の公平で真摯な行動は、世界の仲間から信頼される関係を築いているものと信じている。

インダストリアルスの結成大会で、デンマークとポルトガルを訪問したが、共にバイキング(8世紀～11世紀)と、大航海時代(15世紀～17世紀)の世界の覇者であり、日本とも関わりの深い国である。デンマークは、ロイヤルコペンハーゲンやレゴが有名であるが、農業が強く、日本との貿易でも豚肉と医薬品が主要貿易品目と聞き驚く。金融危機に揺れる欧州の中でも、比較的安定した経済と低失業率を誇っており、国際会議や観光などにも注力、国情の安定と存在感がある。

一方、ポルトガルは、2011年5月にIMF(国際通貨基金)の救済条件を受け入れ、予算カットや公務員給与削減などの緊縮財政に取り組みながらも累積赤字が解消せず、経済が縮小する負の

連鎖に陥っている。ポルトガルは、日本人の年金生活者の移住先として人気の国と聞いた。物価が欧州の中でも比較的安く気候も温暖で、何より安全な国というのがその理由のようだ。ポルトガル人男性と結婚して、リスボンで暮らす日本人ガイドによると、ポルトガル人の特徴は次のようになる。買い物レジで後ろにいくら人が待っているようがお喋りをして急がないし、並んでいる人も急かさない。食事は鱈やタコなど海産物も多く、日本人にも合うが、量が2～3倍も多いため太った人が多い。喫煙率も高く、高血圧や糖尿病など成人病が多いが、自分の義母も90歳で元気のように、長生きの人が多い。これは、普段の生活でストレスがない、のんびりと暮らせる国だからと話していた。かつての覇者ポルトガルは、国内に雇用の受け皿がなく、大学卒業者の多くは、かつての植民地であるアフリカやブラジルで就職しているとのことであった。大航海時代の遺産であろうか、街並みはきれいに整備され、芸術的なモニュメントも多いが、かつての植民地に頼る国のありようは、日本の将来を暗示するかのようである。貿易黒字を海外投資で循環し、国内への投資や分配を怠ると、いずれは国の活力を欠く。日本の金属産業は30兆円近い貿易黒字を稼いでいるが、これらの富を、国内の人や設備への投資に振り向け、ものづくりの国内立地基盤を維持するとともに、優秀な人材を育成することが喫緊の課題である。

2012年6月、IMFは119年の長い歴史に幕を下ろした。そして、化学エネルギーや繊維の仲間とともに、5000万人を結集した新GUF、

インダストリアルスを結成し、新たな歴史を刻むべくその一步を印した。インダストリアルスの結成の経過や意義などは、特集に譲るとして、国際連帯の重要性について、感じたことを記したい。

一口に国際連帯と言っても、相互扶助から、労働者の権利の擁護、労働運動の育成・支援など、その活動領域は広い。昨年3月の大震災時には、IMFの仲間から約4700万円の義援金が届いたが、決して豊かとは言えない組織や個人を含め、多くの人から即座に支援の手が差し伸べられ、私たちは勇気と元気をもらった。一方、世界の各地では、労働組合リーダーへの迫害や、労働組合への攻撃などが続き、IMFはこれらの仲間を支援してきた。途上国の格差問題や、組織化にも積極的に取り組んでいる。インダストリアルスの結成は、これら多くの課題を解決する強力な力となる。グローバル化が進展する中で、多様な民族、宗教、生活習慣、立場などを異にした主張が飛び交い、世界平和をも危うくする事態に陥らないとも限らない。

インダストリアルス結成を機に、労働組合の立場で、存在感を増す中国を含め、多くの国・仲間と丁寧に粘り強く交流をし、お互いが学びあい、絆を深くする国際連帯の輪を広げることが、平和で安定した生活を維持するうえでも、さらに重要になる。



インダストリアルス結成大会の決議に参加するIMF-JC代表団